

2021.2.16  
国立教育政策研究所  
令和2年度教育改革国際シンポジウム

## 第二部（デモンストレーション）

# ICTを活用した公正で質の高い教育の実現に向けたデモンストレーションスクールの取組

---

柏木 智子

立命館大学産業社会学部教授

国立教育政策研究所プロジェクトメンバー

# 教育長のリーダーシップ：導入に際して

熊本市：新学習指導要領の実施と主体的対話的で深い学びを実現するためにICTが不可欠。

安芸太田町：ICT先行地域の取組を把握しており、そのメリットを理解。

# 教育長のリーダーシップ：進め方

【熊本市】

「できるところからやる」

→みんなが豊かになるためにできない子にはそれなりの手立てをする。

：どこでもネットにつなげられるLTEのipad導入。

→できる学校からやっていって他に取り組みを広げる。

：教育センターでモニターして指導員と指導主事とで学校訪問、差をなくす。

→ICT活用における禁止事項を極力減らす。

：持ち帰りを禁止できないように、充電器は3分の1しか用意していない。

\*できないままでは、他の学校・自治体・国との格差を広げる。

# 教育長のリーダーシップ：進め方

【安芸太田町】

大前提は、すべての子どもがオンラインで学べる状況を整えていく。

それなしにオンラインを進めることはしない。

→夏休み前より町内全中学校3年生にタブレット端末及びスマートフォン（Wi-Fiルーター機能）の貸し出しと通信費の行政負担。

→複式学級のある学校同士をつなげて、学校同士の協働を促進。

\* 将来、子どもが都市に出て生きていく際に、ICT面で困らないように公教育で保障する。→ブラインドタッチ等の基本的スキルの獲得や学び合いの保障

# 教育長のリーダーシップ： 困難を抱える子どもに対する支援

熊本市・安芸太田町：

家庭で勉強できる環境にない子どもは学校や放課後子ども教室等で預かる。

→ICTでどこでも勉強できるように。

# 教育長の想い・信念

## 【熊本市】

- ・ 一番辛い思いをしている子どもを救うために何ができるのかで政策決定  
→すべてのこどものための政策へ：  
学校に来られない子どものためのオンライン学校
- ・ 子どもたち一人一人が主人公となって社会をつくり、すべての人のウェルビーイングを達成できるように。

## 【安芸太田町】

- ・ すべての子どもの思いや考えを拾う授業づくり・学校づくりへ  
→先端技術を使用した授業実践
- ・ すべては教員養成と子どもの学びを高まりへ。

# 教育長のリーダーシップ：共通点

1. ICT活用のメリットに目を向け、すでに意欲的に先行投資・実施。
2. アクションを起こすことで、格差を縮小・是正するという理念。  
→今ある、将来抱えるであろう子どもの不利をできる限りなくす。
3. 公教育による子どもの学びの保障のために、不利を有する子ども・学校に対する個別サポートの徹底。
4. すべての子どものウェルビーイングと学びのための公教育の保障の拡大。